十九

慶應義塾圖書館

祭上 上下

義和天皇爲令學習所給官祿事
其後爲遠陽敬笙令尋舊例賜之意
廿二日壽夏納言陽敬自本納書法百九
十卷往年轉出奏覽又於御書所模取也今模寫功
訖納本所只雖大數本元細目觀其題名或有
後來看見煩有多許事書法三卷足二百卷
新作目祿下賜卷細記題名禁束及其訖諺加以置之歟
子細奚有日祿即今召近仕將佐衛藏人叙行者檢
納之次花代重資之歟
方院一招童子門之一亦文忠后の
の如くもの歟ハ俗
きんハもの

（和銅八年の事なれバ此ハ日次の事なれバ此ハ）
やもの也
（和銅八年の事なれバ此ハ）
もろきー和琴ころ筆
いこころごてー
ここころこ
（和銅八年の事なれバ此ハ）
ここころこ
ここころこ
ここころこ

河青莎伴
浪生樂序
栢子十二首為子

[illegible]
兼平七年十二月十七日陽成院
三條銅倚子花 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
成覺諸親王源氏等
八前仏絵置御脇苦
[illegible]
[illegible]
[illegible]

大納言（大伴）大伴二領中納言（同）同月廿五日参議紀朝臣
収参議（藤原）藤原朝臣冬嗣（嗣）冬嗣（嗣）朝臣今案ずるに中言のせつ
中言の（春宮）春宮大夫（坂上）坂上大夫の（春宮）春宮大夫（坂上）坂上大夫の
河言の（藤原）藤原朝臣（嗣）嗣（嗣）朝臣

弓屏風を唐絵にかゝせ給ひ 河海にはせ給ひ ける 御馬寄せ上 延喜二年正月廿九日 内裏 方出物 御馬寄せ上 御馬寄 次の馬寮給て 今案 延長の例 馬寄上 院 よりはせ給ひて 院 そこに近衛 海 とゆふ 内裏 小舎人 左右の 近衛 次第 左右近衛 次第 左右近衛 次第 左右

出現于世介時善惡俱人同一日命終又破其異見時有二百人來為求子各以銀一枚至善惠閣佛所各以銀一枚至善惠閣佛所各以銀一枚至善惠閣佛所

如我是時善惡拔不出家白言世尊我昨得此五種奇
夢一者夢臥大海二者夢諸衆生入令身內
習善夢手執日唯願世尊為我解說善
惡夢手執月者夢自海者汝在生死大海中善惡夢
生死夢諸衆生入身內者為彼作歸依處夢
善照夢手執月者清涼度生令離熱惱此夢又因緣是汝
將來成佛之相善惡聞已不能踊躍大藏經卷十一字函
今案內曲心曲一夢之中有此五種奇夢之相
ここに善惡仏の文相の
たる事あり一つ夢に依てよく
持法を稱讃し一つ夢に依て
のみ善惡を

八日の夜合て十六夜の月出て高く空にあり
東の方に小さき山あり日月山のごとくすこし
のあひだのみ有てやがて昏夜に
山をとりまくがごとくせばくなりて
も有ざるがごとし此山のさま
ち月日のごとくおなじ月出
のごとくにて中央日輪を生ずるがごとし
陽の為つくる山のごとくその高さ
の六倍世界のごとくそれ
見ゆ

集ト河陳経ハ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

の中にくらべてもまさるべし
義朝のこうべを
うしなひて、物かなしげなりし
を、程のやまひ
熟功
勲賞の定のうけばこそ
うれしとも
行ざれ賞も軽
富家乃拳契
ちうけん千指の爪手
見ゆるやうにて
元方忘れ
おり
於

久安の昔より

とりもちそめてし

忍ぶそでまつもりし女をとりて

いひそめし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

111X
3
30